

『偶然の旅行者』 原題 <i>The Accidental Tourist</i> 1988年		執筆: 清水 純子
制作国	アメリカ	
スタッフ&キャスト (監督、脚本家、俳優、その他)	<p>スタッフ: 監督ローレンス・カスダン/ 脚本フランク・ガラティ、ローレンス・カスダン/ 製作: チャールズ・オーケン、マイケル・グリロ、ローレンス・カスダン/</p> <p>キャスト: ウィリアム・ハート: メイコン・リアリー / ジーナ・ディヴィス: ミュリエル・プリチェット / キャスリーン・ターナー: サラ・リアリー / ビル・プルマン: ジュリアン/ エイミー・ライト/ ローズ・リアリー: エイミー・ライト/ デヴィッド・オグデン・スティアーズ: ポーター・リアリー / エド・ベグリー・ジュニア: チャールズ・リアリー/</p>	
画像		
カラー・モノクロ	カラー	
時間	122分	
ストーリー	<p>成功したトラベル・ライターのメイコン・リアリー (ウィリアム・ハート) は、一人息子をハンバーガーショップで偶発的に銃で撃たれて失い、空虚な日々を送っていた。妻のサラ (キャサリン・ターナー) も悲しみから立ち直れず、離婚を宣言して去る。息子がかわいがっていた犬のエドワードを預けにペットショップを訪れたメイコンは、風変わりなミュリエル (ジーナ・ディヴィス) に惚れられる。ミュリエルは病弱な息子を抱えて働く女で、なんとかしてメイコンの心をつかもうと積極的に近づいてくる。しつけの悪い犬のために足を骨折したメイコンは実家のボルチモアで療養するが、出版編集者ジュリアン (ビル・プルマン) が妹のローズ (エイミー・ライト) に惚れて二人は結婚する。花嫁の介添えに選ばれたサラは、メイコンとよりを戻す。追いかけるミュリエルを避けてメイコンは妻とやり直そうとする。しかし、自分を癒してくれ、自分を本当に必要とするのはミュリエルであることを悟り、ミュリエルを選ぶ。</p>	
	20世紀後半	
時代設定	主としてメリーランド州ボルチモア	
場所	女性の社会進出、女性の自意識と自立心の芽生え、社会的に強くなっていく女性の権利と立場、銃の暴力。	
社会背景	強い女性にたじろぐ男たち、仕事にも恋愛にも積極的なアメリカ女性、女性の精神的社会的自立により加速する家庭崩壊、銃社会の悲劇、子供を失った者の癒しの必要性。	
文化的背景	英語: 役者たちはボルチモア訛りを話さないが、"L"の発音が特徴的なボルチモ	

	ア訛りを話すアナウンサーが登場する。
使用言語	予測不可能でコントロールできない人生の複雑さ、人生の悲哀とユーモア、銃社会が招く暴力、失われた子供の命の重さ、人生の岐路に立った時の選択。
テーマ	嘯みつく癖があるいじわるな性格の悪い犬が主人公メイコンの人生を変える。別れた妻と愛人の二人の女性の間で揺れ動く優柔不断な男心、男にとってできる女であることよりも自分を必要としてくれることが大切であり、生きる力を与える。俳優の繊細な表情としぐさが心のデリケートなひだを表現する。
みどころ	Macon: I'm beginning to think it's not just how much you love someone. Maybe what matters is who you are when you're with them. Sarah: Was it a mistake to try again? Macon: No. It's wrong to think we can plan everything. As though it were a business trip. I don't believe that anymore. Things just happen. I don't regret a minute I've spent with you, Sarah. When I saw you at Rose's wedding...I knew that somehow you'd recovered, that you'd...gone on with your life after Ethan. Well, I'd tried, but I couldn't do it on my own. This woman, this odd woman helped me. She's given me another chance to decide who I am. To step out of the Leary groove and stay out. You don't need me anymore. We both know that. But I need her.
印象深いせりふ	日常生活で使う自然できれいな英語が学べる。二人の女性の間で揺れ動く男の心理が巧みに説得力を持って描かれている。さえない中年男の女性関係を嫌味でなくきれいに描く。子供、家族、結婚とは何かを考えさせる。人間関係は流動的であることを示唆。
授業教材用	「子はかすがい」という言葉が洋の東西を問わずあたっていることを証明してしまう。夫婦関係と人間関係の不安定さを肯定しているようにみえる。
メリット	ワーナー・ホーム・ビデオ
授業教材用	アン・タイラー『アクシデンタル・ツーリスト』
デメリット	metacritic 評価（批評家 53、観客 8.0） Rotten Tomatoes 評価（批評家 79、観客 60）
キーワード	ボルチモア、トラベル [旅行]、本、ライター、飛行機、妻、愛人、（愛）犬、子供、離婚、家庭、偶然性、不安定、流動性、銃社会、岐路、選択。

Copyright © Junko Shimizu All Rights Reserved.

★本サイトに掲載される情報の著作権は、清水純子に帰属します。

許可なく複製、改変、アップロード、掲示、送信、頒布、販売、出版等を禁止します。